



いきいきらんど

第51号 H21.1.5

松阪市大口町154-1 TEL 0598(53)1177

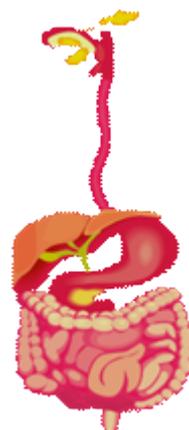


おなかが痛い！

「肩こり」や「胸やけ」ってどんな症状ですか？と言われる方は時々見受けられますが、「腹痛」を経験したことのない方はまずみえないでしょう。今回は、ある程度我慢出来る『腹いて〜』から冷や汗、あぶら汗タラタラの『おなかが痛いっ！』まで、様々な腹痛について考えてみましょう。



①**内臓痛** 胃や腸などの内臓が痙攣したり、収縮したりした際に感じる痛みで、上腹部や臍周囲、下腹部といった漠然とした範囲での痛みとして感じる場合が多く、嘔吐・下痢などの症状も見受けられます。胃腸炎や食中毒の場合がこの内臓痛で、一般的には内科的治療で軽快し、緊急手術の適応になることはありません。



②**体性痛** 腹膜に炎症が加わると、限局した部位に強い痛みが生じてきます。症状が進んでくると、歩行時に響く痛みや打診で痛みが増強してきます。炎症がさらに進むと腹壁が反射的に緊張して硬くなり、お腹を触られるのを避けてじっと丸まった姿勢でうづくまるようになります。虫垂炎が進行して、右下腹部の痛みが強くなってきた場合などで、緊急手術を考慮しなければなりません。

③**関連痛** 内臓からの痛みの刺激が皮膚へと伝わり、皮膚の痛みや知覚過敏として感じます。痛みとなる原因があるところから離れた場所を感じる痛みです。



外科医は腹痛の患者を診る際、原因がなにであるかに関わらず、緊急的に外科的処置をしなければならない腹痛『急性腹症』を見逃さないように診察します。自分で、「体性痛」かなと思った場合には迷わずにかかりつけ医や応急診療所を受診する必要がある、痛みが「体性痛」であることを正しく伝えることが大切です。

【腹痛での受診時の大切なポイント！】

- いつから痛くなったか？
- どこが痛い？
- どのような痛みか？
- 食事との関係は？
- 熱、吐き気、嘔吐、下痢などの他の症状は？

腹痛は、胃・十二指腸・小腸・大腸・胆嚢・肝臓・膵臓といった消化器が原因となっているだけでなく、膀胱炎や尿管結石などの泌尿器疾患、生理痛・子宮内膜症・子宮外妊娠・子宮付属器炎や卵巣捻転といった婦人科疾患等さまざまな原因でおこります。胃が痛いと思って心筋梗塞の関連痛の場合もあり注意が必要ですが、痛みの程度や部位・性質・腹痛以外の症状や、食事との関連などで原因となる病気がある程度推測可能です。夜中にバッテラを食べてアニサキス症を発病し、開腹手術を受けた俳優の○繁△弥さんの様にならないためにも、医療機関受診時には【腹痛での受診時の大切なポイント！】をキッチリ伝えるようにしたいものです。